

中学校

光村ポケット 道徳

● 誰もが参加できる ●
道徳科授業を
目ざして

- ① 発達障害のある児童生徒の特徴
- ② 発達障害のある児童生徒への配慮



坂井聡先生

香川大学教授／香川大学教育学部
附属特別支援学校 校長
障害児の教育方法、障害児のコミュニケーション指導を専門とする。

発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)

光村図書ウェブサイト

光村図書 | Q



教授用資料

本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。



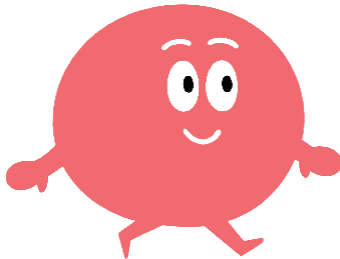
光村図書

① 発達障害のある児童生徒の特徴

発達障害のある児童生徒には、次のような特徴がある場合があります。「対人関係の構築が苦手である」「対人コミュニケーションが苦手である」「こだわり等が強く、想像するのが苦手である」などです。先生のクラスの児童生徒を見つめてみてください。

☑	伝えられたことが理解できれば、それを何とかできるように努力する力があり、真面目と評価されることが多い。
☑	はっきりしたこと、答えが明確なことへの理解力が高い。
☑	正義感が強い。
☑	細かいことを見るのが得意で、小さな違いにも気づくことができる。また、音にも敏感であることがあり、細かい音を聞き分けることができる。
☑	見通しがもてると、最後まできちんとやり遂げようとする。
☑	視覚的な記憶力がよく、状況などを視覚的によく記憶している。
☑	対人関係を構築することや、対人コミュニケーションが苦手なので、「社会性がない」と評価されやすい。
☑	会話がかみ合わないことが多く、会話の中に入れないことがある。
☑	「はい」と返事をしても、理解していないことがしばしばあり、「返事はよいが、わかっていない」と評価されることがある。
☑	思ったことを正直に言ってしまったり、ユニークな答えを言ってしまったりすることがある。その答えが否定されると、落ち込んだり、怒ったりすることもある。

※発達障害のある児童生徒の中には、知的障害を併せもつ児童生徒もありますが、ここでは、通常の学級に在籍している場合について述べていきますので、対象とするのは、知的障害のない発達障害のある児童生徒についてです。



② 発達障害のある児童生徒への配慮

これらの特徴のある児童生徒には、学校生活全般で配慮が必要なのですが、ここでは特に**道徳科**において**気をつけなければならない点**を考えることとします。これを理解することで、道徳科の授業の中で、支援が必要な児童生徒に対して、必要な合理的配慮について考えることができます。

伝えられたことが理解できれば、それを何とかできるように努力する力があり、真面目と評価されることが多い。	真面目と評価されることが多いのですが、できるようにならなければ評価されないと考えてしまうと、できない自分がだめだと自己肯定感を下げてしまうことがあります。努力してもできないことがあっても大丈夫であると伝えることが大切です。
はっきりしたこと、答えが明確なことへの理解力が高い。	見えているものや、計算のようにはっきりしていることの理解力は優れていますが、一方で、あいまいなこと、見えにくいものについては理解できないことがあります。人の感情や気持ちなどは見えないので、想像できないことも多いです。数直線など、視覚的な情報を使って伝える工夫などをする必要があります。
正義感が強い。	正義感が強く、周囲に対しても厳しく意見を言うことがあります。クラスメートの失敗などを指摘してトラブルになることもあります。このようなことが事前に予想される場合は、クラスメートに言う前に、まず先生に伝えるというルールにすることができれば、解決することも多くあります。
細かいことを見るのが得意で、小さな違いにも気づくことができる。また、音にも敏感であることがあり、細かい音を聞き分けることができる。	この特徴の子どもは、教材中にある挿絵などを見るときに、教材理解に必要な細かい部分が気になるということがあります。それが不必要な発言につながることもあるので、そのようなときには、特徴が発揮されたと思って、寛容に聞くことが大切です。
見通しがもてると、最後まできちんとやり遂げようとする。	この時間に何をするのかということをあらかじめ伝えることで、何をするのかという見通しがもてるようになり、活動に参加しやすくなります。視覚的にわかるように示すことが重要です。
視覚的な記憶力がよく、状況などを視覚的によく記憶している。	嫌だったことも視覚的に記憶していることが多く、授業の中で同様の状況が起こると、嫌だった状況を思い出して（フラッシュバック）、パニックになることがあります。授業を離れて、保健室で休憩するなどの提案が必要です。

対人関係を構築することや、対人コミュニケーションが苦手なので、「社会性がない」と評価されやすい。

道徳科の中で重視される社会性の部分では、この特徴が顕在化されます。「友達とは」「友情とは」「親切とは」「尊敬とは」「仲よくするとは」など、人間関係を作るために必要だと思われる言葉の意味が理解できないことも多いので、グループ活動などでの発言でトラブルになることがあります。発問に対する発言がネガティブになった場合も、「そのように考えるんだね。」と承認することが重要です。

会話がかみ合わないことが多く、会話の中に入れないことがある。

主流といわれる人とは、理解のしかたや考え方が違うことがあるので、会話がかみ合わないことがあります。これは、脳の情報処理のしかたの違いが原因なので、どうしても生じてしまうことです。グループのクラスメートには、さまざまな考えがあることを理解するように指導しておくことと、普段からの教師の対応が重要です。周囲の児童生徒は、教師の対応をモデルにするからです。

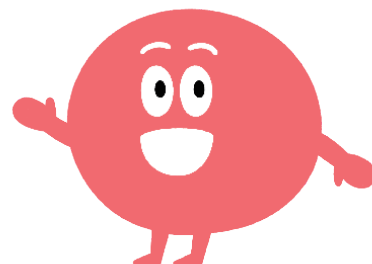
「はい」と返事をしても、理解していないことがしばしばあり、「返事はよいが、わかっていない」と評価されることがある。

相手が意図したとおりには理解していない場合でも、本人なりには理解していたり、返事をするときは「はい」と言うと本人なりに決めていたりすることがあるため、理解していなくても「はい」と返事をしてしまうことがあります。相手の意図したとおりには理解できたのかを確認することが必要な場合があります。

思ったことを正直に言ってしまったり、ユニークな答えを言ってしまったりすることがある。その答えが否定されると、落ち込んだり、怒ったりすることもある。

他人がどう感じているかや、登場人物の気持ちを想像することが苦手なので、本人に、悪意があるわけではないのですが、周囲からは、「KY（空気が読めない）」と評価されてしまうことが多く見られます。そのような状況を避けるためにも、まずは意見を受け止めることが重要です。ユニークな答えでも、教師は笑ったり否定したりすることがないようにします。

どの児童生徒も参加できる道徳科の授業を考えると、クラスには多様な子どもたちがいることを理解して授業を進める必要があります。今回紹介したのは、発達障害のある児童生徒がつまずくかもしれないことの例です。授業者は子どものモデルです。授業者の理解が、初めの一步です。そして大切なのは、**共感的に理解すること、肯定的に返すこと、寛容であること**です。



光村図書

教授用資料

発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)
発行 2025年4月

光村図書ウェブサイト

光村図書 | 検索

